

## 良い知らせ マルコの福音書 1 章 1 節から 8 節

今日からマルコの福音書について本格的に掘り下げていこうと思います。先週はマルコの福音書の背景を説明しました。そこで、今日は最初の節をいくつか読みます。それでは、マルコの福音書 1 章 1 節から 8 節までを見ていきましょう。何であれ、冒頭の部分には重要な意味があります。どのような議論をするのか、何を主題として執筆したのかを紹介するためです。マルコの福音書の冒頭部分は非常に直接的です。そしてポイントを突いています。ですから非常に重要なのです。マルコの福音書の冒頭部分は単刀直入に本題に入ります。それ以外の余分なことの言葉などはありません。この本題、それはイエス・キリストなのです。福音書の中で、マルコの福音書が最も短い福音書です。そこには理由があります。マルコの福音書は常に要点を的確につかんでいます。状況の余分な詳細に多くの時間を費やしません。皆さんもお分かりでしょうが、本題はイエスです。マルコの福音書はそこから始めます。

マルコが最初に語るのは、イエスは良い知らせである、ということです！ 1 節を見てみましょう。1 **神の子、イエス・キリストの福音のはじめ**。先ほど、わたしが、この福音書は余分なことを詳しく書いていない、といいました。その意味が分かるでしょう。マルコの福音書は、非常にハッキリと、唐突に、直接的に本題を述べています。私は神の子イエス・キリストについて書いている。マルコは、これ以外の余計なことは言っていない。ここに気付いていただきたいのです。彼は、「私は『**イエス・キリストの福音**』を書いている」と言うのです。福音とは「良い知らせ」という意味です。つまり、マルコは文字通り「神の子イエス・キリストの良い知らせ、これはその始まりである」と言っているのです。そして、彼は、なぜイエスが良い知らせなのかを語っています。これは本当に短い文章です。皆さんは、こんな短い文章の中に、イエスが良い知らせの理由など語られているか？と尋ねてもいいかもしれません。どこに語られているのか。イエスの肩書きに書かれているのです。マルコは、イエスをキリスト、神の子と紹介しています。キリストとか神の子という用語は、実際にイエスという人物を定義します。この用語が、イエスという人物が良い知らせの中心であることを示します。そして、わたしたちが弟子としてイエスに従うべき理由を説明するのです。マルコの福音書がわたしたちに語っていることとは何でしょうか。まず第一に、イエスがメシアである、ということです。キリストとは「油を注がれた者」という意味です。ヘブライ語のメシアを翻訳する時に使われます。わたしたちを罪から救って下さる救い主が来る。旧約聖書を創世記 3 章 15 節から旧約聖書全体を読むと、このことを指し示す預言が絶えず語られています。その救い主はメシアとして知られています。メシアを指し示す預言同士は、旧約聖書で語られる預言の中で、互いに糸のように関連し合っているのです。イエスの時代のユダヤ人が探し求めていた救い主とは、この旧約聖書で語られていたメシアなのです。わたしたちは、もちろんイエスの物語とその結末を知っています。メシアを待ち望んでいた人々が、メシアを十字架につけました。メシアを待ち望んでいながら、メシアを十字架につけた。わたしたちはどう受け止めたらよいのでしょうか？ユダヤ人は、預言されたメシアを求めていたわけではなかったのです。彼らはメシアを誤解してました。ユダヤ人は救い主を、罪という神学的問題から救って下さる方ではなく、政治的支配者と誤って期待していたのです。マルコの福音書においては、こうして最初にメシアに関する預言に迫り、それを展開していきます。

この先を読み進める前に、マルコが神の子イエスという言い方に込めた 2 つ目のことについて考えてみましょう。このことも重要です。わたしたちは、神がわたしたちを含めた被造物とつながっている、と意識しています。わたしたちはクリスチャンとして神の子である、とも言われています。しかし、イエスが神の子であるということは、わたしたちと神との関係とは大きく異なります。イエスは神の子である。この意味は、イエスは神そのものである、イエスは三位一体の第二の位格である、ということを示します。究極的に言えば、イエスを十字架につけた人々は、彼らのアイデンティティのゆえに、イエスを十字架につけてしまったのです。イエスを十字架につけた人々は、神の子という用語の意味するところを理解していません。彼らは、イエスが人の子と自称したことについても、イエスが自分自身を本当に神であり、神のメシアであると宣言しているのだ、と十分に理解していたのです。使徒ヨハネは、自身が書いた福音書の冒頭で、このこと

を明確に示しています。ヨハネの福音書 1 章 1~3 節は言っています。1 初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。2 この方は、初めに神とともにおられた。3 すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもなかった。イエスが人々を救うメシアになるのとなれば、イエス自身が罪から解放される必要がありました。すべての罪から解放され、完全に正しいのは神だけなので、イエスは、メシアとしての役割を果たすお方です。それと同時に、イエスは罪のない人間としての役割を果たすことができる唯一のお方です。なぜなら、イエスだけが完全な神であるからであり、同時に、イエスは完全な人間だからです。

マルコは、本書をとおして、イエスこそが本当に神であること、神であるがゆえに自分たちのメシアであることを、読者に納得させようとするのです。マルコ 1 章 1 節以降、イエスが神の子と認められる部分は 2 箇所だけです。ひとつは 3 章 11 節で、悪魔たちがイエスを神の子と認めています。もう一つ、イエスを神の子と認めたのは、今度はユダヤ人ではなく、十字架刑を担当した百人隊長（ローマの兵士）です。マルコの福音書 15 章 39 節では、39 イエスの正面に立っていた百人隊長は、イエスがこのように息を引き取られたのを見て言った。「この方は本当に神の子であった。」と書いています。メシアなる、油注がれた者なる、キリストなるイエスを神の子として信じる。この宣言こそが、マルコがこれから語ろうとしているすべてのことの目的に向かっていくのです。イエスは真に神である。わたしたちを救うことができるお方なのだ。マルコは読者に、ひいては、わたしたちにこれらのことを確信させようとしているのです。そして、これこそが、良い知らせなのです！これこそが福音なのです！

マルコは続けて、イエスは預言が成就した福音そのものであることを示すために、今度はメシアに関する預言を取り上げます。もしも、新約聖書が実現しなかったらどうなるでしょうか？あなたは想像できますか？歴史の中で、成就しなかった預言はたくさんあります。その多くは非常に一般的なものでした。言い換えれば、多くの事柄に適用される可能性がありました。旧約聖書は違います。預言の中に、非常に具体的な預言があります。もし、自分がメシア、救い主だと主張する人物がいるならば、彼らの生涯をとおして、その非常に具体的な預言が成就していなければ、彼らを本物のメシア、救い主などとは言えないのです。イエスの生涯は、旧約聖書のすべての預言を完全に成就させました。その預言とは、イエスが宣教を始める前、イエスの前に活躍したキリストの先駆者の預言に始まります。マルコの福音書では、それらの旧約聖書の預言から引用しています。2 節を見てください。2 預言者イザヤの書にこのように書かれている。「見よ。わたしは、わたしの使いをあなたの前に遣わす。彼はあなたの道を備える。マルコの福音書がイザヤ書から引用しているのは、偶然の一致ではありません。イザヤは他のどの預言者よりも、神がその民に究極の救いをもたらす日が来る、という良い知らせに言及しています。その日とは、世界中に平和、抑圧からの解放、罪からの解放がもたらされる日です。マルコの福音書は、イエスが世に到来することは、イザヤが告げた福音が成就し始めたことである、と語るのです。イザヤ書の中に福音について言及している箇所があります。その中のいくつかの重要な箇所は、マルコがその福音書の中で、成就することを待ち望んでいる福音の姿として示されています。イザヤ書 40 章 9 節は言います。9 シオンに良い知らせを伝える者よ、高い山に登れ。エルサレムに良い知らせを伝える者よ、力の限り声をあげよ。声をあげよ。恐れるな。ユダの町々に言え。「見よ、あなたがたの神を。」エルサレムは、イスラエルの民を代表する場所であり、ここから福音という良い知らせを世界に宣べ伝えていく場所であったはずでした。ここから世界に向かって、自分たちの神を見よ、そして、その神のうちにのみ救いを見いだすのだ、と宣べ伝えていく場所であったはずでした。わたしたちは、もはや、神を見出すためにエルサレムといった場所を見るのではなく、神を見出すためにイエス・キリストという人物を見るのです。これが福音の本質です。これをマルコが伝えようとしているのです。福音のメッセージを世に伝える者たちに対して、イザヤはイザヤ書 52 章 7 節でこう言っています。7 良い知らせを伝える人の足は、山々の上にあつて、なんと美しいことか。平和を告げ知らせ、幸いな良い知らせを伝え、救いを告げ知らせ、「あなたの神は王であられる」とシオンに言う人の足は。福音のメッセージを自分たちの周りの世界

に伝える最初の者となったのはイエスの弟子たちでした。マルコの福音書では、ペテロがどのようにしてその弟子の一人になったかを語っています。わたしたちもまた、福音のメッセージを伝える弟子の一人となる必要に迫られています。最後に、イザヤ書 61 章 1 節には、イザヤが預言者として任命された様子が書かれています。この任命は、イエス・キリストの弟子であるすべての人も、イザヤが神からの任命を受け止めたのと同じように受け止めるべきです。イザヤ書 61 章 1 節にはこう書かれています。1 神である主の霊がわたしの上にある。貧しい人に良い知らせを伝えるため、心の傷ついた者を癒やすため、主はわたしに油を注ぎ、わたしを遣わされた。捕らわれ人には解放を、囚人には釈放を告げ、究極的には、わたしたちはイエス・キリストの弟子として、聖霊の力によって、すなわち預言者イザヤに力を与え、福音書記者マルコを通して語ったのと同じ聖霊の力によって、その良い知らせを他の人々に伝えることに専念しなければなりません。

マルコの福音書がこの冒頭で一番言いたいことは、成就した預言がイエスのうちに明白である、ということです。マルコ 1 章 4 節に進むと、このイザヤ書の特別な箇所とその直接的な成就を、マルコが引用した理由が分かります。4 バプテスマのヨハネが荒野に現れ、罪の赦しに導く悔い改めのバプテスマを宣べ伝えた。5 ユダヤ地方の全域とエルサレムの住民はみな、ヨハネのもとにやって来て、自分の罪を告白し、ヨルダン川で彼からバプテスマを受けていた。6 ヨハネはらくだの毛の衣を着て、腰に革の帯を締め、いなごの野蜜を食べていた。7 ヨハネはこう宣べ伝えた。「私よりも力のある方が私の後に来られます。私には、かがんでその方の履き物のひもを解く資格もありません。8 私はあなたがたに水でバプテスマを授けましたが、この方は聖霊によってバプテスマをお授けになります。」マルコの福音書が 1 章 2 節から 3 節で引用したイザヤ書 40 章 3 節の預言は、このヨハネという人をとおして直接的に成就しました。3 荒野で叫ぶ者の声がする。「主の道を用意せよ。荒れ地で私たちの神のために、大路をまっすぐにせよ。このヨハネという人は、教会史にバプテスマのヨハネもしくは洗礼者という名で記録されています。彼はイエスの従兄弟にあたります。イエスより数ヶ月年上ですが、その働きはイエスより先に始まりました。彼は旧約聖書における最後の預言者として働きました。このヨハネは、少なくともイザヤ書から始まるすべての預言者たちによって預言されてきたメシアを、人々に直接指し示す使命を与えられていました。今、メシアは実際にここにいる。ヨハネのメッセージはこれです。わたしたちがすでに知っていること、すなわち、イエスはメシアであり、このお方は罪を赦す力があるので良い知らせである、と。わたしは皆さんに、ヨハネのメッセージの中に、その内容を受け止めてほしいと思います。わたしたちは、バプテスマのヨハネというと、浸礼によるバプテスマや来るべきイエスのバプテスマ、あるいは、ここに書かれている彼の服装や食習慣のことを考えがちです。しかし、このバプテスマのヨハネが宣言していたのは次のことです。つまり、この来るべきメシアに対して、自分はその方の履物のひもを解く値打ちもない。メシアをとおして、わたしたちは罪の赦しを見出すことができる。バプテスマのヨハネは、まだ具体的にイエスの名を挙げてはいません。彼は、この方にあって、罪の赦しと罪からの救いがどのように可能であるのか、を示しているのです。彼は、文字通り、悔い改めと信仰を含む福音を宣べ伝えているのです。バプテスマのヨハネにとって、悔い改めは一つの明確なメッセージです。彼は、イエス・キリストを間もなく来られるメシアとして描写することで、人々に罪を悔い改めるように、このメシアを信じるように呼びかけています。ヨハネの福音書の中では、バプテスマのヨハネが、彼のメッセージを聞くすべての人に、イエスをメシアとして指し示していることが、非常に明確になっています。ヨハネの福音書 1 章 29 節は言います。29 その翌日、ヨハネは自分の方にイエスが来られるのを見て言った。「見よ、世の罪を取り除く神の子羊。」

バプテスマのヨハネは、福音を叫んでいるのです。わたしたちが罪を悔い改め、イエス・キリストをわたしたちの主、救い主として受け入れるという信仰に立ち返るとき、わたしたちの罪が赦され、創造主である神との間に回復がもたらされる、というのです。バプテスマのヨハネの時代でさえ、バプテスマは今日わたしたちが信じているのと同じことを意味していました。バプテスマは、ヨハネが宣べ伝えたキリストを信頼して、罪を悔い改めて、キリストを信じることによ

でもたらされる内的な変化を示すものでした。信仰には悔い改めが伴わなければなりません。わたしたちは信仰によって救われます。しかし、信仰とはただの信心ではありません。わたしたちの罪と神の神聖さを見抜き、罪を悔い改め、その罪から離れるように導かれていくような確固たるもの、それが信仰なのです。イエス・キリストを信じ、彼に従うと言いながら、聖なる神の前に墮落した罪深い状態がいかに深刻であり、暗闇であるのかを認めない。これではイエス・キリストのもとに来ることはできません。なぜ救い主が必要なのか。イエス・キリストに従うようになるためには、このことを理解する必要があるのです。神はあなたの罪を見えています。あなたも自分の罪、すなわち創造主の神聖さに対して、あなたは罪を犯して神を侮辱していることを見なければなりません。その罪を悔い改めなければなりません。2000年前に十字架の上ですでにわたしたちの罪の代価を払ってくださったイエス・キリストに対する信仰によって、神に立ち返らなければなりません。わたしたちが、そのような信仰に立ってはじめて、イエス・キリストの死と流された血が、あなたが罪の赦しと新しいいのちを受けるために有効になるのです。このような信仰に立つこと。これがキリストの弟子、キリストに従う者としての始まりです。これが、マルコの福音書がイエスに従うことの意味として示すことなのです。そして、わたしたちがイエス・キリストをとおして受ける罪の赦し。これが、まさに良い知らせなのです！それを信じましょう。そのように生きましょう。そして、この良い知らせを周囲に宣言していきましょう！お祈りします。

## Good News Mark 1:1-8

Today we are going to really begin digging into this book of Mark. I gave you the background last week, so today we will get into the first few verses and look at Mark 1:1-8. The beginning of anything is usually important to introducing the topic of the discussion or writing, and Mark's beginning is particularly important because it is so direct and to the point. There is not a lot of extra introductory words here; he jumps right into his subject. And his subject is Jesus Christ. Mark is the shortest gospel for a reason. Mark always gets right to his point and doesn't spend a lot of time with any extra details of the situation. As you would expect the subject of this book is Jesus, and that is where Mark begins.

**And the first thing he tells us is that Jesus is Good News!** Look at verse 1. **1 The beginning of the gospel of Jesus Christ, the Son of God.** You see what I meant about not a lot of extra details. Mark is really clear and abruptly direct with his subject. I am writing about Jesus Christ, the Son of God. But notice he doesn't say writing or that this is a book about him or anything like that. He says that what he is writing is the "**gospel of Jesus Christ.**" The word gospel means "Good news." So, he is literally saying, "this is the beginning of the good news of Jesus Christ, the Son of God." And in this statement, he is actually telling us why Jesus is Good news. You might say, where does he say that...this is a really short introductory statement? It's right there in the titles he uses for Jesus. He gives us two titles...he introduces Jesus as Christ and Son of God. These terms actually define Jesus as a person, show why he is the focus of Good news, and explain why we should follow him as disciples. So, what is Mark telling us by introducing Jesus in this way. The first thing he is telling us about Jesus is that he is the Messiah. Christ means "anointed one" and is the word used to translate the Hebrew word Messiah. As we read through the Old Testament starting with Genesis 3:15, there is a continual thread of prophecy that points to a coming Savior who would provide salvation from sin, and that Savior is known as the Messiah. This is who the Jewish people of Jesus' day were looking for. Of course, we already know the story of Jesus, and how this ends. The people who are looking for the Messiah crucify him. So, how do we get from this anticipation of the Messiah to crucifying him? The Jewish people were not looking for the Messiah that was prophesied. They had wrongly expected the Messiah to be a political ruler, instead of a Savior from the theological problem of sin. Mark will go to those prophecies of a Messiah as he continues these first thoughts in this book.

But before we move to those verses, let's consider the second identification he gives to Jesus, Son of God. This is significant as well. There is a sense that as created beings we all have a connection to God. We are also told as Christians that we are children of God. But Jesus being identified as the Son of God is far different than the relationship we have with God. This title for Jesus shows his identity as God himself, the second person of the Trinity. Ultimately, the people crucifying Jesus crucified him for this identity. They fully understood that the terms Son of God and even the term Jesus preferred for himself, Son of Man, were declaring that he was indeed God and God's Messiah. The apostle John opens his gospel by making this identification as God explicitly clear. **John 1:1-3 says, 1 In the beginning was the Word, and the Word was with God, and the Word was God. 2 He was in the beginning with God. 3 All things were made through him, and without him was not anything made that was made.** If Jesus was going to be the Messiah who would save people, then he needed to himself be free of sin, but only God

is free from all sin and completely righteous. And Jesus is the only one who can uniquely fulfill both roles, because he alone is fully God, but also fully man.

And Mark spends the rest of the book convincing his readers that this truly is who Jesus is, that he is their Messiah, because he is God. After this, there are only two places where Jesus is recognized as the Son of God. One is in Mark 3:11 where it is demons recognize his identity as Son of God, because Satan knows exactly who Jesus is. And the last place where he is recognized, this time by a person, and not even a Jew, is by the centurion, the Roman soldier, in charge of his crucifixion. And in [Mark 15:39](#) we read, [39 And when the centurion, who stood facing him, saw that in this way he breathed his last, he said, "Truly this man was the Son of God!"](#) This declaration of faith in Jesus the Christ as the Son of God is what the purpose of everything that Mark is going to say is heading towards. He is trying to convince the reader and therefore convince us that Jesus is truly the one who can save us because he is truly God. And THIS is GOOD NEWS! This is the gospel!

As Mark continues, he now draws on that prophecy of a Messiah to show that **Jesus is the Good News of fulfilled prophecy**. Can you imagine if the New Testament had never come to pass? There has been lots of prophecy written in history that never came true, and much of that prophecy was very general, in other words it could have been applied to many different things. The Old Testament is different. There are very specific prophecies that are given, and if they are not fulfilled, then that person claiming to be the Messiah, the Savior, is not authentic. Everything about Jesus' life perfectly fulfilled every prophecy in the Old Testament starting even with the prophecy of a forerunner of Christ who would be active before Jesus even began his active ministry. Look at verse 2 where Mark quotes the Old Testament prophecy about that man. [2 As it is written in Isaiah the prophet, "Behold, I send my messenger before your face, who will prepare your way, 3 the voice of one crying in the wilderness: 'Prepare the way of the Lord, make his paths straight,'"](#) It is not by random coincidence that Mark quotes from Isaiah. Isaiah more than any other prophet references the good news that there is coming a day when God will bring ultimate salvation to his people. There is coming a day when peace, deliverance from oppression and freedom from sin will come to the world. And for Mark, the coming of Jesus into the world is the beginning of the fulfillment of the Good news that Isaiah proclaimed. Some of the key places in Isaiah where we see the Good News mentioned show us aspects of the Gospel that Mark hopes to accomplish with his gospel. [Isaiah 40:9](#) says, [Go on up to a high mountain, O Zion, herald of good news; lift up your voice with strength, O Jerusalem, herald of good news; lift it up, fear not; say to the cities of Judah, "Behold your God!"](#) Jerusalem, representing the people of Israel were supposed to be a place from which the good news of the Gospel would be declared to the world that they needed to Behold their God, and find salvation only in him. We no longer look to a city to find God, we look to the person of Jesus Christ, and in him, we see God himself. This is essential to the gospel, and is what Mark is trying to convey. And to those who take this gospel message into the world, Isaiah says in [Isaiah 52:7](#), [7 How beautiful upon the mountains are the feet of him who brings good news, who publishes peace, who brings good news of happiness, who publishes salvation, who says to Zion, "Your God reigns."](#) The disciples would be the first to carry this message of the gospel to the world around them, and as Mark shares with us Peter's account of how he came to be one of those disciples, we are confronted with the need to also be one of those disciples who carries that message of good news. Finally, in Isaiah 61:1, we see

Isaiah's appointment as a prophet and it is the same expectation for all those who are disciples of Jesus Christ. [Isaiah 61:1 says, The Spirit of the Lord God is upon me, because the Lord has anointed me to bring good news to the poor...](#) Ultimately, as disciples of Jesus Christ, we are to be focused on sharing that good news with others, through the power of the same Holy Spirit who empowered the prophet Isaiah and spoke through the gospel writer, Mark.

Of course while connections to Isaiah with the Good News of the gospel are significant, Mark's primary point here at the beginning is to show the fulfilled prophecy that is evident in Jesus. And as we continue into verse 4, we see why he quotes this particular passage in Isaiah and its direct fulfillment. [4 John appeared, baptizing in the wilderness and proclaiming a baptism of repentance for the forgiveness of sins. 5 And all the country of Judea and all Jerusalem were going out to him and were being baptized by him in the river Jordan, confessing their sins. 6 Now John was clothed with camel's hair and wore a leather belt around his waist and ate locusts and wild honey. 7 And he preached, saying, "After me comes he who is mightier than I, the strap of whose sandals I am not worthy to stoop down and untie. 8 I have baptized you with water, but he will baptize you with the Holy Spirit."](#) This man named John is the direct fulfillment of [Isaiah 40:3](#) that Mark quoted in verses 2-3. [A voice cries: "In the wilderness prepare the way of the Lord; make straight in the desert a highway for our God.](#) John who church history records by the name John the Baptist or the Baptizer is the cousin of Jesus, only a few months older than him, but his ministry began before Jesus. He functioned as the final Old Testament prophet, given the task of pointing people directly to the Messiah who had been prophesied about by all the prophets starting at least in written form with Isaiah. Now the Messiah is actually here, and John's message is that the Messiah who we already know is **Jesus, is the Good News because of his power to forgive sin.** I want you to see that in John's message. Too many times, we think of John the Baptist just in terms of his baptism by immersion and the upcoming event of Jesus' baptism, or even his clothes and dietary habits that are described here. But John was proclaiming that in this coming Messiah whose sandal strap he was not worthy to untie, we can find forgiveness for our sin. And while we don't see him specifically even give the name of Jesus yet, he shows how that forgiveness and salvation from sin is possible. He is literally proclaiming the gospel that includes repentance and faith. Notice, Repentance is a clear part of his message, and by his description of Jesus Christ as this soon coming Messiah, he is calling people to repent of their sin and believe in this Messiah. And in the book of John it becomes very clear that John the Baptist is pointing everyone who hears his message to Jesus as the Messiah. [John 1:29 says, 29 The next day he \[John the Baptist\] saw Jesus coming toward him, and said, "Behold, the Lamb of God, who takes away the sin of the world!](#)

John's call is the gospel call – that when we repent of our sins and turn in faith to Jesus Christ as our Lord and Savior, there is forgiveness of our sins and restoration with God our Creator. Baptism even under John the Baptist meant the same thing we believe it does today. It demonstrated an inward change that came through repentance of their sin and faith in Christ as they trusted in the one whom John proclaimed. Faith must be accompanied by repentance. It is faith that saves us, but not simple faith, it is robust faith that sees our sin and the holiness of God leading to repentance, a turning away from that sin. You cannot come to Jesus Christ, and say you believe in him and will follow him, but not recognize the seriousness and darkness of your fallen sinful condition

before a holy God. You can only come to be a follower of Jesus Christ, when you realize why you need a Savior. You must come to see your sin as God sees your sin, an offense to the holiness of our creator and repent of that sin and turn by faith to Jesus Christ who already paid the price for our sin on that cross two thousand years ago. Then and only then does his death and his shed blood become effective for you to receive that same promised forgiveness and new life in Jesus Christ. This is how being a disciple, a follower of Christ begins, and it is where Mark begins to show us what it means to follow Jesus. And this forgiveness we receive through Jesus Christ is truly Good News! Let's believe it, live by it, and proclaim it to the world around us! Let's pray.